

塩野義製薬株式会社 御中

ケニア共和国
Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト第2期
(キリフィ県ガンゼ準県)
第2年次 完了報告書

2022年6月30日

(報告対象期間：2021年4月～2022年3月)

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359
URL: <http://www.worldvision.jp>

1. 支援事業概要

事業人：	Mother to Mother SHIONOGI プロジェクト第2期
事業地：	ケニア共和国 キリフィ県ガンゼ準県 バンバ地域およびジャリブニ地域 英語表記: Bamba Ward and Jaribuni Ward, Ganze Sub-County, Kilifi County, Republic of Kenya
事業期間：	2021年4月～2022年3月（事業2年目）
対象人口：	直接受益者：28,196人（うち15～49歳の女性14,788人、5歳未満児13,408人） 間接受益者：49,310人
年間予算：	70,596,615円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18.0%を含む）
事業目標：	妊産婦・授乳婦および5歳未満児の健康を改善する
活動目的：	コミュニティにおける母子保健サービスの質およびアクセスを向上させるために、保健人材・システムの基盤整備を中心とした支援活動を実施し、住民の啓発と意識・行動変容および行政との連携強化を通して対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

2. 支援事業の目的と内容

本事業地の活動地域であるキリフィ県はケニアの沿岸地域に位置し、周期的な干ばつが発生する乾燥・半乾燥地帯に分類されます。事業地であるバンバ準県の人口の約66%以上が1日1.9米ドル以下で暮らす貧困ラインを下回る水準で生活しており、60%以上が自宅から5km以内に保健施設がない場所に暮らしています。また、干ばつの影響もあり、安全で清潔な水へのアクセスは限られており、多くの人々は雨水の溜池からしか水を手に入できず、その結果、下痢などの病気が蔓延し、加えてマラリアの罹患率も高くなっています。

ガンゼ準県の母子保健に関する指標は、キリフィ県の他の地域と比較しても低くなっており、2018年に行われた調査によると、4回以上の産前検診を受診した女性は43%のみであり、施設分娩は全体の52%に留まっています。この主な原因は、医療施設までの距離、施設インフラの不整備及び人員不足、医療従事者の能力不足等が挙げられます。さらに、キリフィ県では5歳未満の子どもの36%が発育不全となっています。また、事業地域の水不足に起因して、世帯レベルのトイレの設置率が低く、衛生状態も良好ではありません。

2020年4月に開始したMother to Mother SHIONOGIプロジェクト第2期では、これらの一つ一つの課題に対して、母子保健サービスへのアクセス向上、コミュニティにおける栄養・水衛生環境の改善、保健システムマネジメントの強化という3つのアプローチを通じた活動を実施します。また、アドボカシー・グループを通じて地域のニーズを特定し、解決策を見出す際に地域社会を積極的に参加させることで、医療システムと現地コミュニティを強化することを目指しています。

2020年3月13日にケニア国内で最初の新型コロナウイルスの症例が発見されたのち、政府は感染拡大を防ぐための規制を行いました。これには、一部の県のロックダウン、移動規制、大規模な集会の禁止等が含まれていました。新型コロナウイルスの感染は次第に落ち着きを見せ、2022年3月末にほとんどの規制は解除されましたが、事業2年目の活動は規制の影響を受けながらの実施となりました。

活動報告

3-1 事業計画

本事業では、妊産婦・授乳婦および5歳未満児の持続的な健康改善を目指し、3つのアプローチを実施します。1つ目に、母子保健サービスへのアクセス向上を目指し、保健施設の整備、医療従事者の能力強化、そしてコミュニティ保健を担う村落保健員とMother to Mother support groupの結成・強化による予防啓発およびサービス受給促進活動を行います。また、保健施設のサービスの質を向上させるため、上位の保健施設および保健省から診療所スタッフへの定期的な連携・指導の体制を整え、さらに上位病院と診療所のリファールシステム(患者紹介システム)も強化します。2つ目は、ケニア国保健省が掲げるBaby-Friendly Community Initiativeの取組みに従い、政府とコミュニティとの連携を強化し、母乳育児や微量栄養素の摂取、バランス食の普及などにより、栄養改善の取組みを強化します。また、保健・栄養改善に必須となる清潔な水へのアクセス改善も行います。3つ目は、コミュニティ・アドボカシーのアプローチを活用し、コミュニティから政府へのボトム・アップの働きかけで、政府・コミュニティ一体となって問題解決ができる仕組みづくりを行います。

アウトカム	アウトプット
1. 妊産婦・授乳婦および5歳未満児の母子保健サービスへのアクセスが向上する	1.1 保健施設において母子保健サービスのための設備が整う
	1.2 医療従事者の母子保健サービスの知識および技能が向上する
	1.3 コミュニティ保健人材が育成される
2. コミュニティの栄養・水衛生行動改善の仕組みが整備される	2.1 コミュニティでの栄養改善の取組みが強化される
	2.2 急性栄養不良に対する栄養プログラムが強化される
	2.3 水供給設備が改善される
	2.4 コミュニティと学校において適切な衛生知識と行動が浸透する
3. 保健システムマネジメントが強化される	3.1 コミュニティと政府関係者間のパートナーシップが促進される
	3.2 モニタリング・評価が強化される

3年間にわたる本事業では年度ごとに以下の活動を計画しています。

	第1年次 2020年4月～2021年3月	第2年次 2021年4月～2022年3月	第3年次 2022年4月～2023年3月
主な活動	保健人材・システムの基盤整備 ・ベースライン調査 ・保健施設の整備(産科棟) ・医療従事者の基礎技術研修 ・コミュニティ保健人材への研修 ・アドボカシー・グループの立上げ、研修	コミュニティ活動の強化・拡充 ・保健施設の整備(産科棟・臨床検査室等) ・水供給施設の整備 ・保健・栄養リフレッシュ研修 ・コミュニティの保健・栄養活動のモニタリング・指導強化	持続的な地域保健システムの確立 ・コミュニティの保健・栄養活動のモニタリング・指導体制の強化 ・活動成果と課題の確認 ・政府関係者との連携強化

3-2 活動項目ごとの進捗 報告対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日（12カ月）

年間計画	実績	進捗状況
支援活動：【1.1】保健施設において母子保健サービスのための設備が整う		
産科棟の建設：1棟	1棟	2021年9月にリマラペラの産科棟増築を開始し、2021年12月に完了しました。機材も整備され、県政府に引き渡しが行われました。
スタッフ宿舎の建設：1棟	1棟	リマラペラ診療所にスタッフ2人が宿泊できる宿舎を建設しました。また、本事業の働きかけにより、ミドイナ診療所のスタッフ宿舎についても、県政府の責任で工事を完了させる旨の約束がなされました。
臨床検査室の建設：2棟	2棟	リマラペラ診療所及びミドイナ診療所において、臨床検査室を建設しました。ジャリブニ診療所の臨床検査室については、事業3年次の2022年4月に完成し、他2施設と共に県政府に引き渡されました。
機材及び備品の整備	臨床検査室：3棟 産科棟：3棟	リマラペラ診療所、ミドイナ診療所及びジャリブニ診療所の臨床検査室及び産科棟の運用に必要な機材及び備品を購入しました。
ソーラーパネルの設置：2台	1台	本事業の予算を使用し、ミドイナ診療所にソーラーパネルやバッテリーなどのシステム一式を導入しました。またパナソニック株式会社様より別途支援をいただき、リマラペラ診療所にも同様のシステム一式の導入及びコントロールパネル室を建設いたしました。（本事業とは別予算）
支援活動：【1.2】医療従事者の母子保健サービスの知識および技能が向上する		
サポートティブ・スーパービジョンの実施	2回	ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニの診療所において、上位の県病院及び準県病院担当者による施設の視察が行われ、施設分娩や予防接種等の保健サービスの実施状況、記録文書の評価、業務ガイドラインの履行状況の評価等が行われました。

<p>巡回診療</p>	<p>毎月 1 回</p>	<p>前年に引き続き、本事業の活動拠点である 3 地域のそれぞれの保健施設から離れた遠隔地に合計 6 カ所に巡回診療の拠点を設け、毎月 1 回の巡回診療を行いました。延べ 10,635 人が予防接種（COVID-19 ワクチン含む）、栄養状況のモニタリング、駆虫剤の供与、ビタミン A の提供を受けました。</p>
<p>データマネジメント研修</p>	<p>診療所スタッフに対するデータ・物品マネジメント研修：3 回、12 人</p> <p>データレビュー会合：3 回、84 人</p> <p>情報管理システムツール使用方法に関する研修：1 回、58 人</p>	<p>ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニそれぞれの診療所において、合計 12 人の医療従事者に対し、患者のデータの文書化、医療物資（薬品等）の在庫データの管理等に関する研修を行いました。</p> <p>県保健省と協働し、各保健施設の医療従事者に対し、保健サービスの提供に関するレビュー会合を 3 回（合計 84 人参加）実施しました。本会合においては、各データが、日々の医療サービスを行う過程で収集される場合や定期的なアセスメントの際に収集される場合があり、データの収集方法や頻度が異なることに留意してデータを活用する方法についても話し合われました。</p> <p>県保健省と協働し、各保健施設の医療従事者 58 人に対し、情報管理、報告、分析方法に関する研修を行いました。産前検診、家族計画等の情報入力に使用される新しい保健情報管理システムツールに関する説明が行われました。</p>
<p>支援活動：【1.3】コミュニティ保健人材が育成される</p>		
<p>村落保健員、保健普及員（村落保健員を指導）、コミュニティ保健委員会への研修</p>	<p>村落保健員、コミュニティ保健委員会への研修：2 回、39 人</p> <p>貯蓄グループの研修：28 グループ、626 人</p> <p>マラリアに関する研修：22 人</p>	<p>村落保健員は本事業の中心的な役割を担っており、前年に引き続き能力の向上や持続性のために複数の研修を提供しました。</p> <p>ジャリブニのコミュニティ・ユニット 2 カ所において、合計 39 人の村落保健員及びコミュニティ保健委員に対し、母子の栄養・保健及びコミュニティ栄養改善に関する研修を行いました。</p> <p>事業 1 年次に研修を受けた 25 人の村落保健員へのフォローアップとして、村落保健員を中心に形成された 28 の貯蓄グループ（合計 626 人）に対し、貯蓄グループの運営方法に関する研修を行いました。</p> <p>22 人の村落保健員に対し、マラリアの症例管理について研</p>

		修を行いました。本研修はマラリアの症例が多いジャリブニ地域から 17 人、ミドイナ及びリマラペラから 5 人が参加しました。
村落保健員の月次会議の開催	村落保健員との月次会議：毎月 1 回 コミュニティとの対話会合：1 回 村落保健員の表彰制度の実施	140 人（20 人/コミュニティ・ユニット）の村落保健員と月次の会議を行いました。保健普及員及び県保健省の栄養担当者も出席し、コミュニティ栄養改善や母子の保健・栄養及び水と衛生に関する活動の報告が行われ、収集された指標を基に解決のための議論が行われました。 また、事業地域において 3 回、コミュニティとの対話のための会合が行われ、ワクチン接種を途中で止めてしまった人へのアプローチ方法、施設分娩及び巡回診療によって収集された指標に関する議論が行われました。 さらに、村落保健員のモチベーションを高めるために、特に顕著な活動を行った村落保健員を表彰し、10 米ドル相当のクーポンを贈呈しました。表彰式は 2021 年 6 月及び 9 月に行われ、合計 16 人の村落保健員が表彰を受けました。
村落保健員に対する指導強化：	村落保健員の世帯訪問の実施支援 村落保健員に対するサポートティブ・スーパービジョン 3 コミュニティ・ユニット	村落保健員 140 人が行う世帯訪問の実施支援を行いました。本活動では、新しい妊婦の特定及び産前検診受診の促進、栄養不良事例のフォローアップ、世帯レベルでの母子の保健・栄養に関するカウンセリングを行いました。また活動中、情報登録フォーム及び報告ツールの不足が課題として挙げられ、今後県政府と協力し、フォームの提供を行う予定です。 また、ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニのコミュニティ・ユニットにおいて村落保健員 30 人に対するサポートティブ・スーパービジョン（保健局や上位の病院のスタッフが、下位の病院を訪問し、課題解決のための支援を行う仕組み）が行われました。本活動では、世帯訪問実施対象の選定方法や症例の登録方法、保健と栄養に関するカウンセリングの方法について支援が行われました。
Mother to Mother support group (M2M グループ) の結成・活動	M2M グループの月次会議の実施	2022 年 3 月末時点で、33 の M2M グループ（ジャリブニ：5 グループ、74 人、ミドイナ：14 グループ、220 人、リマラペラ：13 グループ、150 人）が結成され、活動しています。母親たちは 1 週間に 1 回のペースで顔を合わせ、お互いに母子保健や栄養に関する知識を共有しています。また、地域内において、活動に参加する新たな妊婦に対し、産前検診の受診や施設分娩を促す役割も果たしています。

<p>コミュニティリーダー に対する研修</p>	<p>研修の実施 1 回</p>	<p>保健省と連携し、コミュニティ内で影響力を持つ 30 人（全員男性）に対して、若者の妊娠に関する問題、家族計画、避妊に関する誤った認識などを取り除くための研修を行いました。また、研修には 26 人の妊産婦も参加し、家族計画の課題について議論が行われました。</p>
<p>支援活動：【2.1】コミュニティでの栄養改善の取組みが強化される</p>		
<p>コミュニティ栄養改善 の研修実施</p>	<p>コミュニティ 栄養改善に関 する物品の購 入 県及び準県の 活動に関する レビュー会合 の実施</p>	<p>本活動では、コミュニティ栄養改善の考え方をコミュニティ全体に浸透させるために、複数の研修を実施しました。コミュニティ栄養改善に必要な物品の購入を行い、ミドイナ及びリマラペラのコミュニティ・ユニットに配布しました。これらの物品は M2M グループの活動や調理方法のデモンストレーションの際に使用されました。</p> <p>県及び準県のコミュニティ栄養改善に関する活動のレビュー会合の支援を行いました。会合では、2021 年下半期の医療サービスの提供状況、当初計画の実施状況、サービス提供向上のための課題等について話し合われました。ガンゼ準県に関しては、医療サービスの質向上チームの機能不足、COVID-19 ワクチンに関するコミュニティとの対話不足等の課題が挙げられました。</p>
<p>村落保健員に対する栄養 研修の実施</p>	<p>Community Mother Support Group (CMSG) 会合：1 回</p>	<p>コミュニティ栄養改善に関し、主要な役割を果たすコミュニティの住民、指導的役割を果たす母親、村落保健員、栄養士及び保健普及員から構成される Community Mother Support Group (CMSG) の定期会合実施の支援を行いました。干ばつの状況が厳しい中で行われた村落保健員の活動に関するフィードバック及び今後のアクションプランについて議論が行われました。</p>
<p>M2M グループの栄養に 関する知識の強化</p>	<p>調理方法のデ モンストレー ション：17M2M グループ コミュニティ 栄養改善に関 する研修：27</p>	<p>ミドイナ及びリマラペラの M2M グループ（合計 17 グループ）のメンバーに対し、乳幼児期の食事に関する研修を調理方法のデモンストレーションによる実践を交えながら行いました。</p> <p>ミドイナ及びリマラペラの M2M グループの指導的役割を果たしている母親 27 人に対し、保健普及員、看護師、栄養士によるコミュニティ栄養改善に関する 3 日間の研修を行い</p>

	人	ました。本研修を受講した母親たちは各 M2M グループに戻り、村落保健員と協力して、他の母親のメンターの役割を果たします。
栄養キャンペーン実施支援：	<p>Malezi Bora イベント：2 回</p> <p>世界トイレの日に関するイベント：1 回</p> <p>世界母乳週間に関するイベント：1 回</p>	<p>Malezi Bola (母子保健、栄養状況の向上を目的とした政府によるキャンペーン)の実施を 2 回にわたり支援しました。同キャンペーン内では、ビタミン A 及び駆虫剤の供与が行われた他、1024 人の 5 歳未満の子どもに対する栄養不良のスクリーニングも行われました。</p> <p>2021 年 11 月 19 日の「世界トイレの日」に合わせ、政府とともに M2M グループのメンバーがイベントに参加し、トイレの使用について啓発活動を行いました。</p> <p>8 月第 1 週の「世界母乳週間」に合わせて、県保健省や保健施設と協力して、キャンペーンを実施しました。本事業でコミュニティ栄養改善の研修を受けて、生後 6 カ月間の母乳育児を実施した母親合計 50 人に対して布生地を提供しました。また、この機会を捉えて、県及び準県による保健施設に対するサポーター・スーパービジョンが行われ、母乳育児に関する指標の向上に関し、ガイダンスが行われました。</p>
農業支援（干ばつに強い作物の導入等）	コミュニティに対する家禽の提供：2000 羽	<p>農業省と協力し、ジャリブニ及びリマラペラで、世帯レベルで鶏へのワクチン接種を行いました。リマラペラ M2M グループに対しては、鶏の管理方法、餌のやり方等に関する研修も行われました。</p> <p>また、コミュニティの住民（M2M グループのメンバー、貯蓄グループのメンバー）に対し合計 2000 羽の鶏を提供しました。</p> <p>ムホニ村（ジャリブニ地域内）の M2M グループはマガリニ準県を訪問し、サバキ川の水と井戸を使って灌漑を行っている農民グループの畑の見学を行いました。また、ムホニの M2M グループに対し、点滴灌漑キットの供与を行いました。</p>
支援活動：【2.2】急性栄養不良に対する栄養プログラムが強化される		
栄養プログラムの実施	栄養のスクリーニングと治	急性栄養不良の子どもをモニタリングする IMAM (Integrated Management of Acute Malnutrition) を実

	<p>療</p> <p>データの質に関する監査及びOJTの実施</p>	<p>施しました。本活動は上記 1.2 の巡回診療及び 2.1 の Malezi Bora キャンペーンと統合して行われました。</p> <p>また、栄養不良の事例については、ジャリブニ、ミドイナ、リマラペラの診療所のフォローアップを支援しました。フォローアップでは栄養不良の子どもと村落保健員を結びつけることや、栄養士及び保健普及員の世帯レベルでの子どもたちの成長のモニタリングの実施支援を行いました。</p> <p>ジャリブニ、リマラペラ及びミドイナの診療所において、データの質に関する監査を行いました。栄養状況及び産前検診に関するデータを収集するシートとデータをまとめたシートの間で情報の齟齬があること及びジャリブニ診療所において発育阻害と低体重の指標の定義が誤って用いられていることが指摘されました。これらの問題に関し、メンターシップと OJT が行われました。</p>
<p>栄養プログラムの進捗確認会合の実施</p>	<p>会合：3回</p>	<p>ジャリブニ及びミドイナの医療従事者の IMAM データレビューの実施を支援しました。会合ではや IMAM、地域において干ばつが発生している中での IMAM の実施状況等について議論が行われました。また、準県レベルのデータレビュー会合の実施支援を2回行いました。</p>
<p>支援活動：【2.3】水供給設備が改善される</p>		
<p>水供給施設の整備</p>	<p>貯水タンク：1基</p>	<p>リマラペラ診療所に雨水貯水タンクを設置し、診療所内で水を利用できるようにしました。貯水タンクは県政府に引き渡されました。</p>
<p>水パイプラインの接続</p>		<p>ジャリブニ診療所からパイプラインを延伸し、マヤ村及びマヤ小学校まで水が届くように工事を完了しました。</p>
<p>支援活動：【2.4】コミュニティと学校において適切な衛生知識と行動が浸透する</p>		
<p>コミュニティでの衛生指導</p>		<p>20L の消毒剤、70 個及び 20L のハンドソープを 64 の学校、3 つの保健施設、3 つの M2M グループに提供しました。</p>
<p>衛生施設建設の普及</p>	<p>トリガリング研修：16 か所</p>	<p>事業1年次に衛生行動の変容を促すトリガリング研修を行った11の村に加え、16の村においてトリガリング研修が行われました。引き続き、この研修を行った村においてトイレが建設され、コミュニティの住民の行動変容がみられるかモニタリングを継続していきます。</p>

支援活動：【3.1】コミュニティと政府関係者間のパートナーシップが促進される

<p>アドボカシー・グループの活動</p>	<p>アドボカシー・グループによる施設訪問：3回</p> <p>予算策定に関する研修：1回、39人</p> <p>予算策定フォーラムへの参加支援：8人</p> <p>四半期ごとのアドボカシー・グループ会合</p> <p>共同ミーティングの実施</p>	<p>アドボカシー・グループによる、ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニ診療所への訪問を支援しました。訪問の際に、承認された建設計画やトイレの数が十分でないことが課題として指摘されました。今後、アドボカシー・グループは、政府に対し診療所におけるフェンスの設置、トイレの建築、看護師の配置等についてロビー活動を行う予定です。</p> <p>また、県政府の予算策定プロセスに参加するため、アドボカシー・グループのメンバー39人に対し、予算策定に関する研修を行いました。8人のメンバーは2022年3月に行われた県政府の予算策定フォーラムに参加しました。アドボカシー・グループと準県保健管理チームで協働し、リマラペラ、ジャリブニ、ミドイナ診療所への訪問を行いました。</p> <p>その他、ミドイナ、リマラペラ、ジャリブニの各アドボカシー・グループの四半期ごとのミーティングの実施支援及び県保健促進担当者、アドボカシー・グループメンバー、コミュニティの住民、各診療所の医療従事者によるミーティングの実施支援を行いました。</p>
<p>政府・パートナーとの定期会合の実施</p>	<p>会合：2回</p>	<p>ミドイナ、リマラペラ及びジャリブニの各地域から15のM2Mグループがバンバ準県病院で行われた「マザーオープンデー」への参加支援を行いました。同イベントでは、施設分娩や4回の産前検診の受診の必要性、より多くのM2Mグループメンバーの勧誘の重要性について話し合われました。</p> <p>また、本プロジェクトスタッフは母子の栄養（Maternal, Infant, and Young Child Nutrition: MIYCN）に関する全国会合に出席し、MIYCNに関する課題（ドナーの減少、干ばつ、人員不足等）についての議論に参加しました。</p> <p>産後の家族計画とそのケアに関する好事例を学ぶために、ミドイナ、リマラペラ及びジャリブニの医療従事者を支援しました。</p> <p>ヘレンケラーインターナショナルと協力し、2つの栄養セクターのテクニカルフォーラムの実施支援を行いました。</p>

		2022年3月には県栄養セクター担当者、家族保健サービス長、県公衆衛生担当者による事業のスーパービジョンを行いました。事業に参加する母親の乳幼児に関する知識、プロジェクトによる施設への投資、巡回診療の実施等が評価されました。
支援活動：【3.2】モニタリング・評価が強化される		
ベースライン調査・中間評価・最終評価の実施：	ベースライン調査の実施	2021年11月に中間評価を実施しました。(調査結果は下記に記載します。)

3. 中間評価結果

4-1. 中間調査概要

中間調査は2021年11月にWVケニアスタッフ及びコンサルタント、調査員によって行われました。その後、コンサルタントによって調査結果が報告書としてまとめられました。

支援事業実施工程表(2022年3月時点進捗状況)

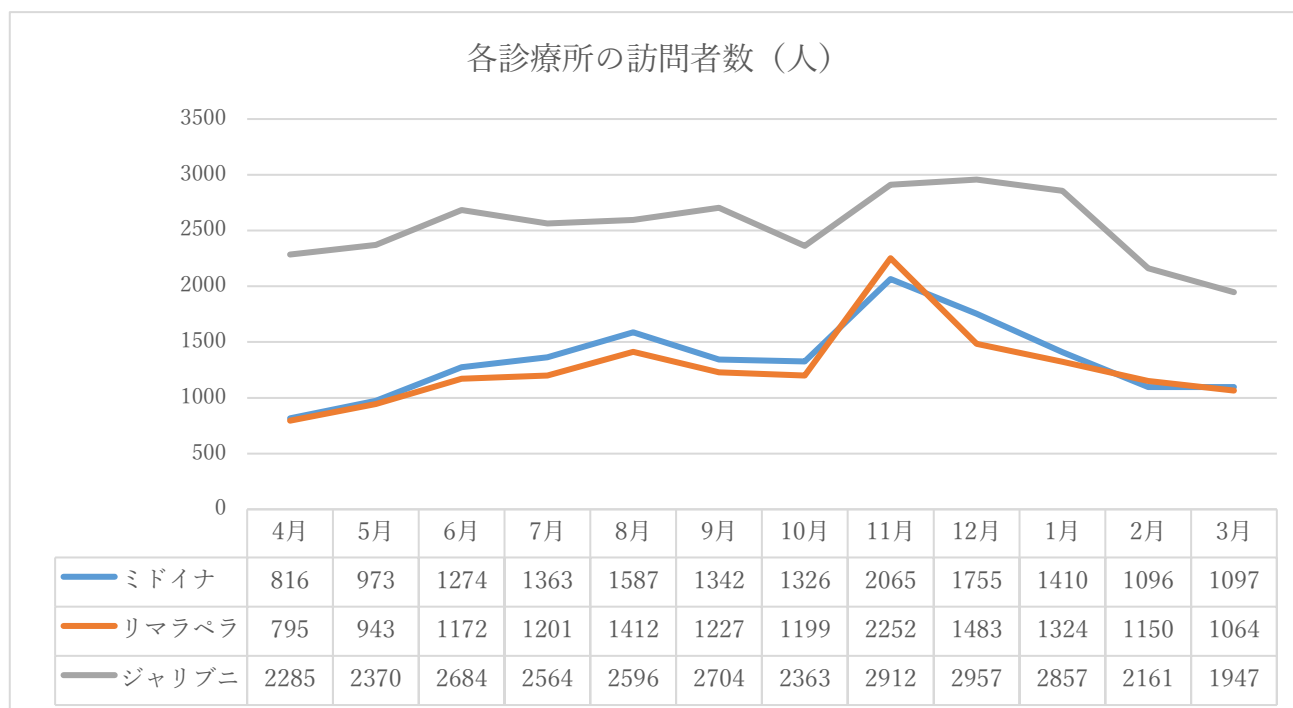
青：当初計画 赤：実績

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アウトプット1.1												
産科棟の建設・増築		青	青	青	青	赤	赤	赤	赤			
スタッフ宿舍の建設・修復		青	青	青	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
外来棟および臨床検査室の増築		青	青	青	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
機材および備品の整備			青	青	赤	赤	赤					
ソーラーパネルの設置										青	赤	
アウトプット1.2												
サポーターティブ・スーパービジョンの実施	青		青		赤				青		赤	青
巡回診療の実施	青	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
データマネジメント研修		青	青	赤		赤		青	青	赤	赤	
アウトプット1.3												
村落保健員、保健普及員、コミュニティ保健委員会への研修	青	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤	赤
村落保健員の月次会議の実施	青	青	青	青	青	青	青	青	青	青	青	青

村落保健員に対する指導強化													
Mother to Mother support group の結成・活動													
コミュニティリーダーに対する研修													
アウトプット 2.1													
コミュニティ栄養改善の研修実施													
M2M グループの栄養に関する知識の強化													
栄養キャンペーン実施支援													
農業支援(干ばつに強い作物の導入)													
アウトプット 2.2													
栄養プログラムの実施													
栄養プログラムの進捗確認会合の実施													
アウトプット 2.3													
水供給施設の整備													
水パイプラインの接続													
アウトプット 2.4													
コミュニティでの衛生指導													
衛生施設建設の普及													
アウトプット 3.1													
アドボカシー・グループの活動													
政府・パートナーとの定期会合の実施													
アウトプット 3.2													
ベースライン・中間評価・最終評価の実施													

4. 支援事業による保健サービスの利用状況

図 1: 各診療所の延べ訪問者数(2021年4月から2022年3月)



2021年11月に Malezi Bora (母子保健サービスの有効活動を促進する政府の戦略の一環のキャンペーン。例年5月頃と10月頃に2回実施されますが、2021年は新型コロナウイルスの影響で11月の1度のみ実施。)が開催されたため、一時的に施設利用者数が増加しました。2022年は6月に同キャンペーンが実施される予定で、本プロジェクトもキャンペーンの実施を支援する予定です。

図 2: 事業地の保健施設で保健サービスを受けた患者数 (2021年4月から2022年3月)

	ミドイナ診療所	ジャリブニ診療所	リマラペラ診療所
来院者数	16104	30400	15222
妊産婦 (15歳~49歳)			
妊産婦の産前検診(4回以上)の受診者数	165	175	53
専門技能者の介助による施設での分娩数	155	168	26
微量栄養素(鉄分、ヨウ素)のサプリメントを受け取った妊婦の数	828	1133	405
家族計画の相談・指導を受けた妊産婦数	424	944	246
5歳未満児			
予防接種完遂児数	254	180	154

中等度及び重度急性栄養失調の完治数	9	5	15
ビタミン A 欠乏症治療数	2097	3418	1751
発育阻害数 (Stunting)	171	249	480
消耗症数 (Wasting)	65	83	66
低体重数 (Underweight)	258	335	515

(参考：事業1年次)

項目	ミドイナ 診療所	ジャリブニ 診療所	リマ・ラ・ペラ 診療所
来院者数	3,656	6,980	4,758
妊産婦 (15-49歳)			
妊産婦の産前健診 (4回以上) の受診者数	143	124	31
専門技能者の介助による出産数/保健施設での分娩数	289	187	52
微量栄養素 (鉄分、ヨウ素) のサプリメントを受け取った妊婦の数	818	832	269
家族計画の相談・指導を受けた妊産婦数	368	979	218
5歳未満児			
予防接種完遂児数	234	265	112
中等度および重度急性栄養失調の完治数	14	27	3
ビタミンA欠乏症治療数	2,159	3,384	1056
発育阻害数 (stunting)	88	7	84
消耗症数 (wasting)	19	57	52
低体重数 (underweight)	417	147	181

事業継続性

- 県政府のオーナーシップ醸成のため、ワールド・ビジョン・ケニアとキリフィ県政府は本事業終了後の事業の効果を持続させるための準備に関する各組織の責任を明記したコミットメントレターに署名しました。
- ワールド・ビジョン・ケニアとキリフィ県政府は 12 人のメンバーから成るプロジェクト実行委員会を設立しました。実行委員会は県政府の組織であり、本事業の実施を監督し、迅速に事業が行われ、COVID-19 の規制を遵守し、政府の方針とガイドラインの準拠を確保します。
- 本事業では、県保健省の他、M2M グループに提供された家禽の管理に関し、農業省等とも協力し継続的な支援を行っています。

5. 今後の予定(2022年4月～2023年3月)

政府の COVID-19 対策の規制はほとんど撤廃されましたが、今後の感染再拡大の可能性に注意しながら、保健省との緊密な連携の中で感染予防対策を十分に施しつつ、事業活動を実施してきます。以下、本報告書提出時点における COVID-19 の状況です。

- ケニア国内および事業地における新型コロナウイルス感染症の状況

2020年3月13日に最初の新型コロナウイルス感染者が見つかった以来、ケニア政府はロックダウンを含む厳しい措置を取ってきました。ケニア国内の感染状況が落ち着いたことから、政府は2022年3月末にほとんどの規制を解除しました。2022年5月時点では1日の新規感染者数は100人以下でしたが、本報告書提出の2022年6月ごろから新規感染者数が再び増加しはじめ、1日当たりの新規感染者数は390人となっています（6月17日付発表）。

COVID-19 ワクチンの接種状況については、過去数カ月感染状況が落ち着いていたこともあり、成人人口の31.4%が2回接種を完了、3回目の接種を完了した成人は人口の7%にとどまっています。

6. 事業地関係者・受益者の声

- ジェイコブ・ムワンギ氏（ガンゼ準県の医療検査コーディネーター）



Mother to Mother プロジェクトが開始される前、ガンゼ準県には臨床検査室が3カ所しかなく、検査技師も5人しかいませんでした。施設の機材や備品も限られており、このような体制で地域のすべての妊婦の産前検診を行うことには大きな課題がありました。現在、私は Mother to Mother プロジェクトの支援を受け、リマラペラ及びジャリブニの診療所を月に1度訪問しており、これにより合計453人の地域の母親に医療サービスを提供できるようになりました。また、事業から顕微鏡やその他の検査機器の提供を受け、より高度な医療サービスを提供できるようになりました。ご支援にとっても感謝しています。



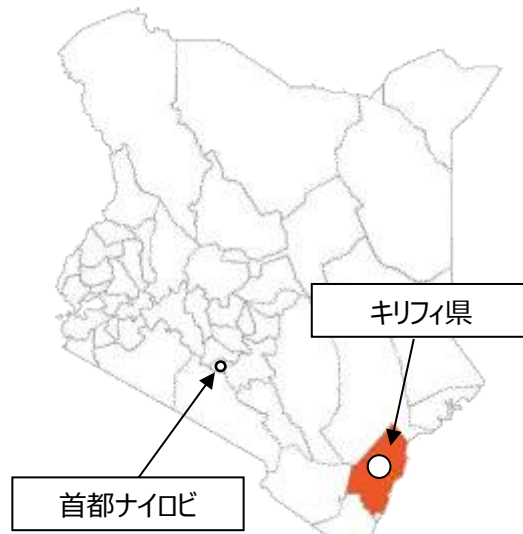
産前検診を行う様子



事業から提供を受けた機材を使用して検査を行う様子

【添付資料】

①支援対象地地図



ガンゼ準県



事業地はバンバ地域およびジャリブニ地域 desu
です。

②進捗状況写真

	
<p>M2M グループ月次会議</p>	<p>村落保健員の巡回診療に対する サポーターティブ・スーパービジョン</p>
	
<p>データの質に関する監査 リマラペラ</p>	<p>栄養不良事例のフォローアップ</p>
	
<p>栄養不良事例のフォローアップ</p>	<p>バンバ準県病院におけるオープンマザーデー</p>



データや在庫管理に関する
サポーターティブ・スーパービジョン



ミドイナ産科棟への物品納入



調理方法のデモンストレーション



村落保健員の月次会議



リマラペラ臨床検査室



ミドイナ臨床検査室

以上